

授業に関する面接について（ 小学校 国語科 ）

【テーマ（課題）】

小学5年生の国語科において、単元「事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう」、教材「想像力のスイッチを入れよう」（教科書P199～P210）を全5時間で扱う。本単元は、小学校学習指導要領解説国語編の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」を主に扱う単元である。

本単元（全5時間）の第1時から第4時までは、筆者が挙げた事例とそれに対する筆者の意見を整理しながら、筆者の考える「想像力のスイッチ」とはどのようなことをまとめる学習をしてきた。

本時（第5時）は単元のまとめとして、これまでの学習や経験を振り返りながら、メディアとの関わりについて自分の考えを文章に書き、それを友達と伝え合い、自分の考えを広げる時間である。

この本時の授業を構想し、説明しなさい。

＜国語科における児童の実態＞ 児童数 31人（男子14人、女子17人）

- 授業では、友達との交流に意欲的な児童が多い一方で、意見の根拠まで深く考える経験は十分とは言えない。
- 説明文の学習では、筆者の主張をとらえることはできるが、その内容を自分の生活と関連付けて考えることに難しさが見られる。
- 児童は日常的にタブレット端末等でインターネットを利用しており、ICTを活用して学ぶことに意欲を示す児童は多い。

授業に関する面接について（ 国語科 ）

〔テーマ（課題）〕

第2学年において、「描写を工夫して書こう」を教材として、「自分の体験を基に、心の動きが伝わるように表現の効果を考えて物語を書こう」という単元を設定した。

本単元は、8時間扱いとし、単元を貫く学習課題（言語活動）を「心が動いた思い出の瞬間を切り取り、読み手が追体験できるよう描写を工夫して物語を書く」とした。

育成を目指す資質・能力として、知識及び技能については、「（1）語彙」を、思考力、判断力、表現力等については、「B 書くこと 考えの形成、記述」を設定した。

本単元は、8時間扱いのうち、「題材を決める」ことに2時間、「設定や構成を考える」、「物語を書く」ことに5時間、「作品を読み合うこと」に1時間を使う予定である。また、「設定や構成を考える」、「物語を書く」の部分の5時間は、生徒が主体的に考えて自由に学習を進められるように構想した。本時は、「設定や構成を考える」、「物語を書く」の部分の4時間目である。生徒が、心が動いた瞬間について、これまでに読んだ物語や小説の表現を参考にしながら書きあげた物語をさらによりよくしようと、友達と練り合う場面とする。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「国語2」P224～P227 光村図書）

＜国語科における生徒の実態＞

- 第1学年の「随筆」を書く単元において、構成や描写の工夫について学んだ際には、多くの生徒が、身近に起こったことや経験したことなどの特徴を踏まえ、感じたことや考えたことを素直な言葉で表現した。
- 日記として、出来事の事実を書き表すことには慣れているが、自分の考えを伝えるために表現の効果を考え、読み手を意識して語句を選ぶ意識は薄い。

授業に関する面接について（ 社会科 ）

〔テーマ（課題）〕

第 2 学年の地理分野「C 日本の様々な地域（3）日本の諸地域」において、「②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」を基にして、単元「関東地方」（教科書 P233～248）の学習を 6 時間で扱う。

第 1 時では、関東地方の自然環境を扱い、地形や気候の特色について学ぶ。また、それまでの学習で、生徒は「過密」「三大都市圏」といった用語を学んでおり、人口の過密の課題についても、教科書に説明が書いてあることは知っている。

第 2 時（本時）では、既習内容と関連付けながら「多くの人が集まる首都、東京」（教科書 P238～239）の様相を多面的・多角的に捉えさせたい。単元「関東地方」を通して身に付けることができるようにする事項を把握しながら、本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」P233～248 帝国書院）

＜社会科における生徒の実態＞

- 男子 15 名、女子 15 名、計 30 名の学級である。
- 学級内には、自主的に学びを進めることができ、「社会科は得意だ」と自信をもっている生徒が一定数いる。一方で、「緩和、老朽化、利便性が高い」といった教科書に出てくる言葉の言い回しに不慣れだったり、太文字の用語がたくさん出てきて「言葉が難しくて覚えるのが大変」と苦手意識を感じたりしている生徒も一定数いる。
- 一つの資料を適切に読み取ることができるものの、複数の資料をもとに多面的・多角的に考察することや、文章で説明を書き表すことを苦手とする生徒が多い。
- タブレット端末は、いつでも使えるように持参しており、スライド資料の作成など日常的に慣れている生徒が多い。

授業に関する面接について（ 数学科 ）

〔テーマ（課題）〕

第2学年において、3章「1次関数（P71～P105）」（全18時間扱い）を扱う。

1節「1次関数」は10時間、2節「1次関数と方程式」は3時間、3節「1次関数の利用」は4時間を予定している。単元の終末には、演習や活用に1時間充てる予定である。

本時は、3節「1次関数の利用」の第4時であり、一次関数を利用して複数の印刷会社の印刷料金を調べる場面である。P100、P101を取り扱いながら、本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「中学数学2」P71～P105 教育出版）

＜数学科における生徒の実態＞

- 第1学年において、伴って変わる2つの数量を表に整理し、2つの数量が比例の関係にあるか、反比例の関係にあるかを見いだす学習をしている。
- 比例や反比例、一次関数の関係を表、式、グラフなどで表すことはできる。
- 自分の考えをもつことはできるが、うまく説明できない生徒がいる。

授業に関する面接について（ 理科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年「身のまわりの物質とその性質」(P73～P90)において、「金属と非金属」(P76～P79)を2時間で扱う。この2時間の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「新編 新しい科学1」P76～P79 東京書籍）

＜理科における生徒の実態＞

- 既習事項や生活体験などと結び付け、意欲的に学習に取り組む生徒が多い。
- 観察・実験の目的意識が低く、見通しをもって取り組むことができない生徒がいる。
- 多面的に調べようとする生徒が少ない。

授業に関する面接について（ 音楽科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「箏の魅力を味わおう」という題材を4時間で扱う。本題材で扱う学習指導要領の内容は、第1学年A表現（2）器楽より、ア、イ(イ)、ウ(ア)で、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「音色」「旋律」である。教材として、「虫づくし」「姫松」「さくらさくら」を取り上げる。第2時（前時）までに、箏の基本的な奏法を学習し、「虫づくし」「姫松」を演奏する活動を行ってきた。

本時（第3時）では、押し手、かき爪、割り爪、合せ爪などの奏法を習得し、箏の音色や旋律の特徴を生かして、「さくらさくら」を演奏する学習を行う。本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「中学生の器楽」P34～P42 教育芸術社）

＜音楽科における生徒の実態＞生徒数30人（男子15名、女子15名）

- 歌唱や器楽などの学習に積極的に取り組む生徒が多いが、リコーダー等、器楽の技能の習得に苦手意識をもつ生徒が3割程度いる。
- これまでに、アルトリコーダーを用いて、アーティキュレーションを自分で考え、演奏する学習を行っている。
- 箏に触れる学習は初めてである。本題材に入る前に、箏曲「六段の調」を鑑賞し、箏の音色を味わう学習を行っている。
- 小学校4年時に「さくらさくら」を歌唱する学習を行っている。

＜留意事項＞

- ・ 学校にある箏の数は15面であり、平調子での調弦を授業前に行っている。
- ・ 生田流の爪を使用して授業を行う。

授業に関する面接について（ 美術科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年2学期において、「人間っておもしろい～人柄が分かる人物画を描こう～」の題材を設定した。画用紙に、画材（絵の具、色鉛筆、クレヨン、墨など）を使って絵画で表現する。本題材は5時間扱いとする。

第1時では、人物画を鑑賞し、その人柄や心情はどこから感じられるのかを考える活動と、性格の違いによって、それをどのような色彩、構図、画材で表現するとよいかを考える活動を行った。

第2時（本時）は、身近な人を見つめ感じ取った特徴などを基に主題を生み出し、どのような色彩、構図、画材で描くかを、アイデアスケッチに発想や構想する場面とする。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「美術1 美術との出会い」P18～19 日本文教出版）

＜美術科における生徒の実態＞

- 30人学級（男子16人、女子14人）
- 美術科の授業に意欲的に取り組む生徒が多いが、発想の場面において悩む生徒が見られ、なかなか制作が進まない生徒が一定数いる。
- 1学期に「見つめて、感じて、描いて」（教科書P12.13）を学習したが、絵画を苦手とする生徒が半数近くおり、そのほとんどが、着彩を苦手としている。

授業に関する面接について（ 保健体育科 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「B 器械運動 マット運動」を8時間扱いで行う。単元を通して、自己に適した技に挑戦したり、自己の課題の解決に向けて取り組み方を工夫したりしながら、技ができる楽しさや喜びを味わうことをねらいとしている。

授業の第3時（前時）までに、オリエンテーションを行い、学習目標の確認や8時間の単元計画を伝えて生徒が見通しをもてるようにしたり、安全面への配慮について確認したりした。また、基本となる知識や技能に触れ、技に触れる中で自身の課題を見付ける時間を設定した。

第4時（本時）では、発見した自己課題の解決に向けて取り組む時間とする。本時の授業を構想し、説明しなさい。

＜保健体育科における生徒の実態＞

- 第1学年 男女共修 32名（男子16人、女子16人）
- 小学校でもマット運動を履修してきている。
- 単元導入時に行ったアンケートでは、マット運動が「好き」と回答している生徒が15名、「嫌い」もしくは「苦手」と回答している生徒が10名。「どちらでもない」は7名いる。「嫌い」もしくは「苦手」と回答した理由は「うまく回転することができないから」「失敗した時に怖いから」という意見があった。
- 見学者はおらず、全員参加できている。

授業に関する面接について（ 技術・家庭科 技術分野 ）

〔テーマ（課題）〕

第1学年において、「A 材料と加工の技術」を題材として設定する。「材料と加工の技術」について、生徒はこれまでに、既存の技術の理解や課題の設定、技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画、課題解決に向けた製作を行ってきた。本時は、生徒が製作した製作物（マルチラックやタブレットスタンドなど）を準備させ、これまでの材料と加工の技術の学習を振り返る授業を行う。

なお、本時は、技術分野の学習過程における「次の問題の解決の視点」と位置付けている。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」P98～101開隆堂）

＜技術・家庭科（技術分野）における生徒の実態＞

- 男子15人、女子15人、計30人の落ち着いた学級。
- 第1学年であるため、道具の使い方については、経験が乏しく使い方を知らない生徒が多くいる。
- 生徒たちは日常生活の中で問題を見つけ出し、木材を用いて問題の解決をしようとしている。
- 全員が木材を用いた製作物を完成させているが、完成度については個人差がある。

授業に関する面接について（ 技術・家庭科 家庭分野 ）

〔テーマ（課題）〕

第2学年でB「衣食住の生活」衣生活「(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」の学習を8時間で扱う。

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）では、「資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること」とある。そこで、第1時（本時）で、衣服等の再利用など布を無駄なく使うことが、資源や環境への配慮につながることを学習した上で、製作に取り組めるような学習計画を構想する。第2時以降は、第1時（本時）を起点にして、資源や環境に配慮した布を用いた作品を作り、基本的な縫い方や道具の使い方を学習していく予定である。

生徒は、第2学年の2学期からB「衣食住の生活」衣生活の学習を進めている。また、第2学年3学期にC「消費生活・環境」の学習を予定している。持続可能な社会に向けた学習は、各題材の中で設けている。なお、この題材の前には、(4)衣服の選択と手入れの学習をしている。

本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ」P226～P229 開隆堂）

＜家庭科における生徒の実態＞

- 衣生活分野にかかわる学習前の事前アンケートでは、「裁縫はあまり得意ではない。」と答える生徒が5割を超え、苦手意識をもっている生徒もいる。反して、「裁縫は得意。」と答える生徒も3割以上おり、衣生活分野に対する興味関心は、二極化としていることが考えられる。
- これまで、小学校家庭科の授業では、裁縫の経験は一定程度あるが、苦手な生徒は、小学校時代の被服実習にてスムーズにできず、苦手を払拭できずにいる生徒がほとんどである。
- 興味関心が高い生徒は、ものづくりの喜びをすでに感じているが、低い生徒は、「衣服は買うものだ。すぐ買えるし、作るのはめんどうだ。」と考えている。

授業に関する面接について（ 外国語科 ）

【テーマ（課題）】

第3学年において、「Unit6 The Chorus Contest」の単元（教科書 P71～81）を9時間で扱う。単元の終末には、「ALT に、休日を楽しんでもらう（観たり読んだりしてみたいと思ってもらえる）お薦めの作品を提案しよう」（教科書 P78～79）という「話すこと [やり取り]」の領域における言語活動を設定している。

第7時（前時）までに Part1～Part3 を扱い、後置修飾を使ってお薦めの作品について紹介したり、既習表現を活用しながらお薦めする理由や自分の気持ち、考えを説明したりする活動を行ってきた。

第8時（本時）では、単元終末の言語活動に向けて、これらの既習の表現を用いてペアやグループでお薦めの作品について伝え合ったり、質問し合ったりすることを通して、自分の考えを修正し再構築する。本時の授業を構想し、説明しなさい。

（教科書「Here We Go！ 3」P71～P81 光村図書）

＜外国語科における生徒の実態＞

- 男子15名、女子15名、計30名の学級。
- 英語を「聞くこと」「話すこと」については抵抗が少なく、英語が好きで積極的に言語活動に取り組む生徒が多い。
- 「話すこと [やり取り]」に関しては、自分の考えや思いを表現したいという気持ちはあるものの、既習事項を適切に活用することができず、やり取りが継続しない場面が見られる。
- 自分の考えや思いを表現することに自信がもてず、人と関わるのが苦手だと感じている生徒が少数いる。

保健に関する面接について

[テーマ（課題）]

中学校第2学年において、担当教師が、保健の学習「応急手当の意義と実際」の単元を、「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引き」に示す通り取り扱う。

「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引き（P43～P44）」

第2章 保健教育の展開例

第1節 保健体育科（保健分野）

4. 第2学年「(3) 障害の防止」(I) 応急手当の意義と実際」

5. 指導と評価の計画（4時間）

担当教師は、単元の終末「4 応急手当の実際」について、養護教諭と共にチーム・ティーチングを行う計画を立てている。担当教師（T1）からは、あなた（T2）に、「第1時～第3時までの総まとめとして第4時（本時）を行うにあたり、既習の応急手当の方法が、単に技法の獲得にとどまるのではなく、今後の生活の中で実際に活用されるようにするために、本時の『学習のねらい』を明確にしたい」と依頼があった。また、「傷害のケースを示した場面カード」の一例として、次に示すものが用意されている。

部活動中、選手三人が激しく激突し、三人とも倒れ込んだ。部活の顧問が別の対応で席をはずしている。

A 君：仰向けで倒れている。話しかけても返事がない。

B 君：意識はある。「腕が痛くて動かせない」と言っている。すねには擦り傷。

C 君：意識はある。鼻から出血（鼻出血）している。

あなたは、養護教諭（T2）として、どのように授業に参画しますか。本時の授業（50分）を構想しなさい。

<本問題における生徒の実態>

○保健室利用者は少ないが、けがで利用する生徒のほとんどが、傷口の洗浄や止血をしない状態で保健室を訪れる。

○学習意欲が高く、健康に関する知識のある生徒は多いが、それに基づいた実生活を送る生徒は少ない。

○他人を思いやることはできるが、自主性や積極性が低く、周囲の状況に対して当事者意識をもって関われる生徒は少ない。